

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 7 回相模原市観光振興審議会		
事務局 (担当課)		市長公室 観光・シティプロモーション課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)		
開催日時		令和 4 年 8 月 2 4 日 (水) 午前 1 0 時 0 5 分から正午まで		
開催場所		相模原市立市民会館 3 階 第 1 中会議室		
出席者	委員	8 人		
	その他	-		
	事務局	7 人 (SDGs・シビックプライド推進担当部長、ほか 6 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
会議次第		1 開会 2 委員・事務局の紹介 3 会長・副会長の選出 4 相模原市観光振興審議会の概要について 5 議題 (1) 令和 3 年度及び令和 4 年度の取組について (2) 第 3 次相模原市観光振興計画の中間見直しについて 6 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 委員・事務局紹介

委員の自己紹介及び事務局の紹介を行った。

3 会長・副会長の選出

相模原市観光振興審議会規則第3条第2項の規定に従い、会長及び副会長の互選により次のとおり定めた。

会 長 内藤 錦樹 委員（桜美林大学名誉教授、観光振興アドバイザー）

副会長 中島 伸幸 委員（公益社団法人相模原市観光協会専務理事）

4 相模原市観光振興審議会の概要について

事務局より当審議会の概要について説明を行った。

5 議題（○は委員、●は事務局の発言）

内藤会長が議長となり議事を進行した。

（1）令和3年度及び令和4年度の取組について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

《主な意見等》

○ イベントに関しては、オンラインの活用など、今までと違ったアプローチの仕方を使うことによって、

今まで届かなかった層の方々に、イベントの存在を知っていただけたと思う。

○ キャンプやツーリングに関しては、若い世代にとっても人気なアクティビティであると思うので、もう少しコロナが落ち着いたら、さらに動きが期待できるのではないか。

○ 市営キャンプ場もコロナ対策で閉鎖した時期があったが、利用組数は過去最高であった。従来は団体客が多かったが、現在は4～5人程度で1組あたりの人数が減っている。キャンプ場一つとってみても、コロナの影響で流れが変わり、管理が非常に重要になり、注意しながら対応している。アフターコロナを見据えたプランも練ったが、まだしばらく現行の体制を継続する必要があるようだ。

○ 鉄道利用については、お盆期間で多くの利用をいただいているが、コロナ以前には戻り切っていないという状況。通勤や通学での利用が回復してきており、近距離利用については、大体8割くらいに戻ってきているが、観光利用については、6割程度という状況が続いている。

- 11月1日から1か月、参加される方自身がいろいろ散策しながら歩くハイキング企画を検討している。コースは淵野辺駅から原当麻駅までで、JAXAやレトロ自販機を組み入りたいと思っている。
- 城山の観光の中心は、城山湖の散策であるが、昨年7月からコミュニティ広場が閉鎖されてしまっており、これに伴い観光客も減っている。
- 地域には小倉橋灯ろう流しなどいろいろなイベントがあり、すぐにコロナで中止するのではなく、どうやったら実行できるかという視点で取り組んできた。1回辞めてしまうのは簡単だが、再度取り組む気力がなくなってしまうので、いかに継続していくかということで、小倉橋灯ろう流しについては動画配信するなど工夫した。
- 若い人が中心となって企画した初めてのイベント「みんなの津久井湖夏祭り」は短期間での準備であったが、見込みを多く上回る約5,000人が訪れた。また、ボランティアを募集し、そのボランティアを中心にした活動ができ、今までと違った取組ができた。
- 神奈川県の旅割について、第1弾はすぐに売り切れたが、第2弾は第7波の影響もあってか、上限に達していない。
- 4月から7月の店舗への来客数は多かったが、旅行単価は全体的に低かった。計画における指標について、観光意欲度が上がっているのは、マイクロツーリズムが進んでいるからで、相模原市にとっていい傾向だと思う。これから、イベントがコロナ前のように実施されるようになってくれば、マイクロツーリズムとの相乗効果で必然的に指標の数値も上がってくるのではないかと。
- これまで、4月から6月にかけては、バーベキューやカレー作りなど新学年の行事として約5万人に利用いただいていた。コロナにおいてはほぼ0に近い数字になったが、今年は半分程度まで戻ってきている。
- ファミリー層の動きが非常に悪いという話であるが、屋内施設が少なく、屋外のアスレチックメインでやっているからか、前年比100%ぐらいで推移している。
- 他の委員の発言を聞くと、いわゆる消費者が何を相模原市の観光に求めているかが縮図としてわかるのかなと思う。マイクロツーリズム、キャンプ、アウトドア、イベント、こういったところが相模原の特徴なのかなと思う。
- 県の観光協会や自治体等の観光客の受け手側の思いと、観光客側の思いのずれがどうなのか調査した。例えば、箱根、鎌倉、湘南にしても、どの受け手も宿泊をしてほしいが、実態は動いてしまうので、東京・横浜に泊まっている。相模原はどうかというと、キャンプ場のニーズはすごく高かった。また、イベントにとっても期待されている。宿泊を伴う観光は経済効果もあるし素晴らしいが、求めているのはイベントのようである。こういったところは、これからどういう形で

相模原の観光を考えていくか議論する中でもベースに持っていないといけないと思う。良いところを活かして、リニアなどの新しいファクターを組み合わせることが必要。また、観光が産業として成り立っていくように、審議会の中でいい方向に向かうよう、道筋を立てることができればよいと思う。

- 東京・横浜に宿泊しているのが現状であるが、県内や東京も含めたネットワークで人を動かして、人が動けば、経済効果もついてくることから、そういったものを目指してやっていくのも手なのかなと思う。
- 自治体がこれからどう観光振興をしていこうとなった時には、まず、観光資源の棚卸が必要。どんな観光資源があつて、分類していくと、強み弱みがはっきりとわかってくる。次は、観光客の棚卸でどういった目的で来ているかを把握すること。観光資源と観光客がマッチしていれば、観光客は来ていることになる。観光客は来ていないということは、これがマッチしていないからであるから、その課題を抽出して対応するというやり方をすることは多い。
- 本市ではこれまで、キャンプ場を前面に押し出した施策は行ってこなかったが、今回かなり前面に出して実施したので、これは観光資源と観光客の需要がマッチした事例と思っている。また、市としては強みを認識しつつ、弱みをどうこなしていくかも対応する必要があると感じている。
- キャンプ場は逆に宿泊のほうが多い。土日は半分が宿泊で、横浜、川崎といった市外の方がほとんどである。
- 冬季期間閉鎖しているキャンプ場が多いので、消費者として、営業期間が延長されると良いと思う。
- 委員から意見が出たとおり、本市の観光資源の強み弱みを明らかにしながら、市内外の観光客の需要にマッチさせ、今後の観光施策を展開していきたい。
- 観光ガイドの重要性が高まっている。ガイドで成功しているところは、観光で成功しているところが多い。キャンプもそうであるが、専門家にガイドしてもらうこともよい。大島のほうで、家族で米作りを行う企画があつたが、ああいうものが求められていると思う。
- 例えば、屋久島は世界遺産になる前はガイドがいなかった。地元の人たちだけのガイドでは足りず、外から人が入ってくるようになった。これによって観光がすごく発展していった。定住・移住の促進にも寄与している。
- 若い世代だと、大人数だとキャンプに行こうとなった時は行先の候補になるが、少人数で遊びに行こうとなった時に、相模原市はなかなか候補にならない。
- 子どもが一人の20代後半から30代前半の夫婦で、これからマイホームを持って、どこに住もうか考えているところがターゲットになってくると、ファミリーでキャンプもしますし、良いところを見つけるとそのまま定住にもつながってくると思う。

- 観光・シティプロモーション課では、シティプロモーションも所管しているが、子育て世代、若者をターゲットにしている。観光自体も若者や子育て世代をターゲットにしていくのは、シティプロモーションの取組とも合致すると思うので、うまく連動させていきたい。
- 先ほどガイドの話が出たが、本市には、津久井の自然体験マイスターがいる。先般、メディア向けに体験ツアーを行った際に案内いただいた。直接説明してもらうことはかなり有効だと思うので、もうちょっと力を入れていきたいと思う。
- 行政の施策は広くポピュラーにやらないといけないが、マーケティング、ターゲットは、小さいところから入るから、合い入れないところがある。制度設計や施策展開は行政の仕事であるから、審議会の委員の普段の活動の中では、マーケティングとかターゲットングをした中で、小さいところから始めて、行政の施策に到達するようすることが必要であると感じている。

(2) 第3次観光振興計画の中間見直しについて

- 第5章現状と課題について。“地域のボランティアベースの活動で採算性が無いこと”とあり、補助金で成り立たせている現状がある。また、“実行委員会の高齢化”というのもそのとおりである。補助金だけではなく、基本方針2にあるとおり、人材の育成などの推進体制づくりが必要である。
- 補助金がないと、自主財源の確保が難しく立ち行かないような現状ということは我々も認識しており、大きな課題だと認識をしている。また観光マイスター等、そういったシステムも活用しながら人材育成を行っていきたいと考えている。
- これからの行政のあり方としては、市民の皆さんの意欲をどう引き出すかっていうところが、重要だと思っている。補助金を出すことが、意欲を出すこととイコールではないと思っている。
- 基本方針の施策に記載がある具体的な取組はどれだけ実施できたのか、実施できなかったのかというものも明確にしていきながら、見直し作業を行っていただきたい。
- 見直しについては、いただいた意見をもとに対応を検討していきたい。
- 中間見直しに際しては、ネットワークとビジネス化と都市経営にどうやって寄与するか、この3点が大きなポイントの中ではないかと考えている。
- ネットワークについては、観光客は相模原市に来るわけではなく、たまたま相模原市にあるキャンプ場に来るということだと思うので、自治体が連携して取り組んで、エリアで観光客を受け入れていくということは重要だと考えている。
- この4月から「明日の城山を考える部会」を立ち上げた。いろいろなジャンルの人が集まって、1年を通して、城山の観光のあり方、財政について検討していく。そうすることで、新しいアイデアが生まれるだけでなく、担い手や人材育成

ができるようになってきている。

- 市内には観光協会が8団体ある。昨年も意見を述べたが、市観光協会の強化として、一つの組織となったうえで、各地域を発展させていくことが必要だと思う。

6 閉会

以 上

第 17 回相模原市観光振興審議会委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専 門 家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
公 募 委 員	岩永 優花子	公募委員	—		出席
関 連 団 体	中島 伸幸	(公社)相模原市観光協会	専務理事	副会長	出席
	大貫 幸雄	大島観光協会	会長		出席
	中野 秀人	城山観光協会	会長		出席
	関戸 昌邦	津久井地域商工会連絡協 議会	会長		欠席
民間事業者	牧野 英太郎	(株)J T B相模原支店	支店長		出席
	佐藤 賢策	東日本旅客鉄道 (株) 橋本駅	駅長		出席
	茂手木 祐介	相模湖リゾート (株)	代表取締役 社長		出席